

韓国大学スポーツ協議会の成果と課題

関 允淑¹⁾, 小林勝法²⁾

A Study on the Achievements and Tasks of the Korea University Sport Federation

Yoon-Suk MIN¹⁾, Katsunori KOBAYASHI²⁾

Abstract

The purpose of this study is to analyze the achievements and to present the task of the Korea University Sport Federation (KUSF). The data for this study was collected using a mixed method comprising documentary analysis and interviewing. The programs conducted by the KUSF are classified according to four main categories: 1) the financial support program of the college athletic department, 2) the academic support program of the student-athlete, 3) the promotion program of college sports leagues, and, 4) an enhancement program of marketing and branding. These programs show some success and have positively affected Korean college sports. However, as 90% of the projects are subsidized by the government, the KUSF needs to develop business to strengthen financial base. It is necessary to expand the current marketing program and develop its profitability through cooperation with the KUSF.

Key words: College sport, KUSF, UNIVAS

はじめに

2010年6月8日に韓国の大学スポーツを総合的に管理・監督する組織として、「韓国大学スポーツ総長協議会（한국대학스포츠총장협의

회）」が設立された。2018年8月に名称を変更し「韓国大学スポーツ協議会（한국대학스포츠협의회）」となった。英語表記では、Korea University Sport Federation（以下、「KUSF」と略す）である。

1) 筑波大学大学院

University of Tsukuba

2) 文教大学

University of Bunkyo

韓国の2012年夏季ロンドンオリンピックのメダル獲得数の50.8% (29個)は、大学学生選手による獲得であり、韓国における大学運動部は、韓国のエリートスポーツの中核を占めている。しかし、大学経営の合理化や定員の減少などにより、運動部は年々縮小・廃部される傾向にあった。また、2000年代に学生選手の学習権・人権をめぐるおきた衝撃的な事件は社会的に大きく 이슈化され¹⁾、学生選手の学習権と人権の保護のための改善策が求められた。そのような中、特別法として2012年1月26日に「学校体育振興法」が制定され、学校の体育・スポーツ活動を国が管理・監督することになった²⁾。ただ、大学は、大学の自治を尊重することから適用範囲から除外され、米国のNCAA (National Collegiate Athletic Association) を参考に、大学スポーツを専担する組織としてKUSFを設立することになった。

現在、日本ではスポーツ庁において、日本版NCAA創設の検討が進められている。日本に先んじて韓国版NCAAとも言えるKUSFを立ち上げた韓国の経験は、大学スポーツ総括組織の設立経緯や組織構造、運営、事業内容とその成果などについて日本にとっても大いに参考になると考える。しかし、日本で報告されているKUSFに関する研究や記事は、関³⁾が2015年

に『大学体育』第105号に発表したものだけであり、それは主に2014年に行われた諸事業を中心にKUSFを紹介した記事である。その後の成果や最近の状況については報告されていない。

2017年12月に『韓国大学スポーツ総長協議会2017年鑑』が刊行され、設立から7年間の成果を記録している。そこで、本研究は⁴⁾、この年鑑とその他の文献資料、関係者へのインタビュー調査をもとに、KUSFの成果と現状について分析する。

1. 研究の目的

本研究の目的は、KUSFの組織と運営の実態、事業の成果について調査分析し、その課題について考察することである。

2. 研究の方法

本研究では、文献資料と関係者へのインタビュー調査結果を用いて分析する。用いる文献資料は、以下の通りである。① KUSF 定款および運営規程、② KUSF 年鑑 (2016, 2017)、③ KUSF 機関誌および広報媒体、④ KUSF 内部資料 (インタビュー調査から入手した資料)、⑤ 大学スポーツに関する学術論文である。また、インタビュー調査は半構造化面接を行い⁵⁾、

表1 インタビュー調査の実施日と対象者

	実施日	名前	所属
1	2018. 1. 25	JIN, Jai-Sco(진재수)氏	KUSF 事務所長
		KIM, Min-Hee(김민희)氏	KUSF 事務所企画経営チームマネジャー
		KANG, Min(강민)氏	KUSF 事務所企画経営チーム副マネジャー
場所：KUSF 事務所会議室， 時間帯(分)：14時から15時半まで(約90分)			
2	2018. 1. 26	KANG, Shin-Wook(강신욱)氏	KUSF 執行委員会委員長(当時) 壇国大学校国際スポーツ学科教授
		場所：韓国体育学会会長室， 時間帯(分)：11時から12時まで(約60分)	

KUSFの運営に深く関係している関係者を対象に行った。

3. 結果

KUSFの設立経緯，組織状況，実施事業の成果は以下の通りである。

1) KUSFの設立経緯

大学運動部をめぐる問題が指摘される中で，その改善方案として大学スポーツを管理・監督する担当組織の必要性が提示されていた。その中で，2009年10月4日に，当時の文化体育観光部長官YU, In-Chon(유인촌)(以下，「YU長官」と略す)は，バスケットボール部がある11大学の総長と懇談会を開いた^{6,7)}。懇談会では，短期間で勝負が決定するトーナメント式の試合により，学生選手が授業を欠席して厳しいトレーニングを行うことが指摘され，大学学生選手の学習権保障のためにホームアンドアウェーリーグ制を導入することと，大学スポーツ協会の設立の必要性について議論が行われた。その後，2009年10月9日に民族統一体育研究院の主催で「韓国大学スポーツ先進化戦略(韓国型NCAAの可能性模索)」についての研究・セミナーを，2009年12月4日に韓国体育学会と

民族統一体育研究院の主催で「大学スポーツ先進化方案セミナー-大学スポーツの先進化のための戦略的課題-」が開かれた。また，2010年2月4日にYU長官は，再び運動部を持つ主要大学の総長と大学で運動部を担当する教授との懇談会を持ち，同年2月19日には団体種目の運動部を3つ以上持つ13大学の中で11大学が参加し，KUSF創立小委員会を構成した。KUSF創立小委員会は，同年3月6日，25日，4月6日，20日の計4回開催された。そして，同年5月18日には第一次KUSF創立総会準備委員会を，5月25日には第二次KUSF創立総会準備委員会を開催し，2010年6月8日にKUSF創立総会を正式に開催した。文化体育観光部からは同年7月16日に正式に許可を得た⁸⁾。

KUSFの事務所長JIN, Jai-Sco氏は，当時の状況について，「スポーツ特待生の入試の不正や学力不足が大きな問題となっており，そのために運動部を廃止する大学もあった。学生競技連盟はあったが，大学を横断的に統括する団体はなかったので，大学の意向が反映されにくかった。」と述懐している。また，KUSF執行委員会委員長のKANG, Shin-Wook氏は，「政府(文化体育観光部)の行政官がアメリカで研修



図1 インタビュー調査の対象者

しているときにNCAAを知り、帰国後検討会を開いたことがきっかけであった。」と述べている。しかし、設立準備の途上では、「入試改革や学業基準を設けることなどについて、現場の運動部指導者から文化体育観光部へ反対の意見表明が提出されるなどの反対運動もあった。」と当時の苦勞について語った。

そして、KUSFの創立総会当時には、17大学が加盟して始まったが、2018年現在では97大学が加盟している。韓国全国に約213大学あるが、その約45%の大学がKUSFに加盟している。加盟している大学は、国公立21校、私立76であり、4年制大学は87校、2・3年制大学10大学である⁹⁾。また、会員大学の競技種目は大韓体育会(Korean Sport & Olympic Committee)(以下、「KOC」と略す。)に登録されている大学運動部の44種目とほぼ同じぐらいである。

また、最初に名称を「総長協議会」としたことについて、Kang氏は「総長がリーダーシップを取ることが重要であるので、そのことを明

示した。」と語っていた。

2) KUSFの目的と組織

(1) KUSFの目的

KUSFの設立目的について、2010年7月16日に制定された「韓国大学スポーツ協議会定款」では、「協議会は大学スポーツの健全な育成と発展を図り、大学スポーツの本質を回復してスポーツ先進化を達成するための大学スポーツに関する学業・財政・施設などの主要な事項について自律的協議と研究・調停を通して相互協力し、学生選手のスポーツ活動と教育を通して精神的・肉体的・社会的に健全なリーダーシップを備えるようにし、スポーツ発展に必要な政策を政府に建議して優秀な競技者の養成と国民統合及び国家イメージ向上に資すること」を目的と定めている。また、「KUSF大学スポーツ運営規程」第3条では、大学スポーツに関する総合的な管理を通して必要な制度の構築と人材の育成に資するとともに、大学スポーツ文化が毀損されることのないように指導することを設立

表2 KUSF大学スポーツ運営規程第3条

KUSF 大学スポーツ運営規程 第3条(協議会の設立趣旨及び目的)
協議会は大韓民国の大学スポーツを代表し管掌する国内唯一の社団法人として以下のような設立趣旨及び目的を持つ。
1. 大学スポーツに関する学業運営・財政・施設等の主要関心事についての自律的な協議と研究・調停及び相互協力を通して先進型大学スポーツ制度を構築する。
2. 学生選手たちが大学スポーツ活動と教育を通して精神的・肉体的・社会的に、健全なリーダーシップを備えるようにし、学生選手たちを全人的スポーツ指導者及びグローバルスポーツ人材として育成する。
3. 大学スポーツ発展に必要な政策を開発・施行し、優秀な学生選手の養成とともに健全な大学スポーツ文化を造成し大学教育の目的の達成に資する。
4. 大学スポーツにおいて競技指導者と学生選手と関連する大学、大学競技連盟の制度・行政が大学スポーツの理念と価値に符号するように指導・助言し調停する。

趣旨及び目的とした。

(2) KUSF の組織

設立当時から現在まで会長（1名）、副会長（4名）、理事（6名）、監事（1名）を運動部を持つ大学の総長で構成している。また、副会長の下に執行委員会（14名）と分課委員会を設けて大学教授、弁護士、行政関連の有識者で構成している。分課委員会は、競技支援委員会（6名）、賞罰委員会（6名）、財政・マーケティング委員会（6名）、学士運営委員会（6名）に区分して運営している。今後、各大学で運動部を担当する部または室の長で構成する「全国大学体育部（課）長協議会」の設置を計画している。さらに、事務所は事務所長（1名）の下に運営支援チーム（3名）と企画総括チーム（4名）、広報マーケティングチーム（6名）を設けている¹⁰⁾。

3) KUSF の財務状況

KUSF の主な収入源は、文化体育観光部の国民体育振興基金からの補助金である。国民体育振興法では国民体育振興基金の使用について

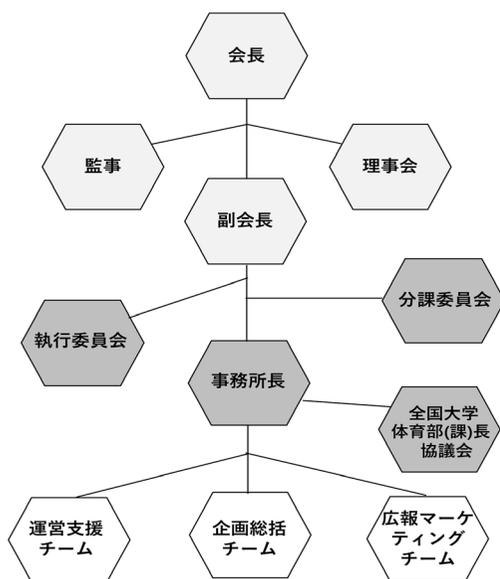


図2 KUSF の組織図

第22条の第1項と2項において定められている¹¹⁾。KUSFは、第2項の国民体育振興基金をもとに出費された財源の中で、大統領令が定める配分比率に該当する補助金から、体育・文化芸術の振興のために特別に支援が必要な事業と、体育振興投票券、いわゆるスポーツ toto の対象競技団体及び非発行種目の支援を通してプロ、アマチュアスポーツの活性化に寄与することを目的に毎年支援が行われている¹²⁾。

2014年から2017年までの補助金は、2014年は54億2千万ウォン、2015年は96億6千9百万ウォン、2016年は92億7千4百万ウォン、2017年は118億1千万ウォン（約11億円）と2016年に少し下がったが、2014年と比べて2017年の補助金は2倍以上になった¹³⁾。KUSFに加盟する大学の数が年々増えていることも補助金増加の一つの理由であるが、大学スポーツの健全な発展が小・中・高校の運動部に及ぼす影響が大きいことから財政的な支援により、大学運動部の縮小及び廃部を防止する理由からも増えていると言われている¹⁴⁾。

補助金以外のほかの収入源としては、KUSF入会費と年会費がある。入会費は入会当時のみで1,000万ウォン（約100万円）を払い、年会費は毎年200万ウォン（約20万円）を払う。また、大会の入場券からの収益金もあるが、事業を運営できるほどではなく、補助金以外の収入は、全体収入の約1割程度である。

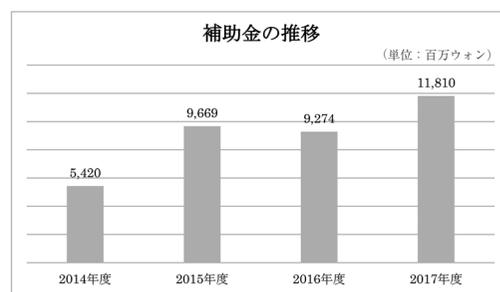


図3 文化体育観光部からの補助金の推移

4) KUSF の事業とその成果

KUSF の事業は、以下の5つに区分される。

(1) 大学運動部の支援事業

大学運動部の支援事業は、大学運動部を財政的に支援することによって大学運動部の育成と競技力向上を目的として2014年から行われている。支援はKUSF会員大学を優先し、KOCの正加盟団体57種目であり、当該中央競技団体に登録した運動部が支援対象となる。非会員大学は、KUSFの会員となることを前提に申請できる。また、スポーツに関して不正があった大学には、事件発生の該当年度から2年間は支援を行わない。実際に2015年には11大学、2016年には6大学、2017年4大学が支援対象から除外された¹⁵⁾。

支援対象大学の審査及び選定は、書面と実地調査によって行い、2014年に策定した大学運動部の評価指標をもとに定量評価と定性評価を行っている。評価指標の内容と配点は表3に示す通りである。評価領域としては、スポーツ施設や学生選手の管理・支援・能力、指導者の能力、運動部の社会貢献などと広範囲である。実地調査は、評価委員会においていくつかの大学を選定して実際に訪問して評価を行う。2017年の実地調査では、12大学を訪問して評価が行われた¹⁶⁾。

支援の内容は、練習費や用品費、大会出場費などで、過去4年間の実績は表4の通りである。なお、2016年度は体育系大学への支援制度が始まり、韓国体育大学校の29運動部を支援した。2017年度支援事業では、80大学に計42億2千万ウォンを支援し、韓国体育大学校に8億ウォンを支援した。1つ大学に、平均約5,275万ウォンを支援することとなった。

加盟大学の中で財政的支援事業に申請をしない大学には、次のような2つの理由がある。第1に、上記で述べたように不正事件がある大学、第2に、大学運動部の管理不足により、大学運動部評価のための必要な資料を提出できない大

学である¹⁷⁾。ただ、国からの補助金は、主にKUSFを通して支給される構造になっていることから、大学は運動部の運営に必要な財政的支援を得るようにKUSFが提示する評価基準に達するように努める。一方、加盟していない大学においては、運動部の財政的支援を得られるような会員となる契機となっている。実際に加盟大学数は、84大学(2015)、92大学(2016)、94大学(2017)、97大学(2018)と年々増加傾向にある。

(2) 学生選手の学業支援事業

大学スポーツを活性化し、正常化することを目的として「KUSF大学スポーツ運営規程(以下、「KUSF運営規定」と略す。)」を2015年に制定・施行した。運営規程は表5に示す通り、全8節81条で構成されている。また、2016年には「KUSF大学スポーツ運営規程運営細則」が制定・施行された。このような体系的な運営規程及び規則を基に、運動部学生の学業の管理と競技運営の正常化・先進化、及び大学スポーツの健全な育成と発展が促されるのである。

興味深い規定としては、第19条(入試不正行為の禁止)、第21条(入試要綱)、第23条(授業日数と補習)、第25条(単位管理と不利益処分)、第29条(大会及び競技運営の原則)、第39条(身分保証及び給与等)、第43条(競技指導者の義務等)がある。

まず、第19条と第21条は、スポーツ特待生の入試に関する条項である。これらの規定は、大学が入学を条件として、高校生に経済的に支援するなどの不正行為を行うことを禁じた。また、主に競技実績で特待生を選抜した従来の方式から、センター試験・学業成績などを含めて選抜するように大学に命じた。

第23条と第25条は、学生選手に関する条項である。これらの規定は、国際及び全国規模以上の大会の出場により、授業に参加できなかった場合でも、一般学生と同様の教育を受けることができるように、環境を提供することを大学

表3 2017 大学運動部評価指標体系

評価領域	評価指標	配点	比較
投資及び施設のインフラ (12)	大学運動部の運営支援の実績	5	定量
	大学運動施設の確保実績	7	定量
	小計	12	
学生選手の運営管理 及び支援(29)	大学運動部在学生の充足率	3.5	定量
	大学運動部学生管理及び支援運営	5	定量
	大学運動部の選手学業成就度	10	定量
	大学運動部就職率	7.5	定量
	学生選手入試要項 適正性	加算点 3	定量
	小計	29(26+加算点 3)	
学生選手確保及び能力 (33)	大学運動部の人員数	5	定量
	大学運動部国内・国際出場実績	6(加算点 1)	定量
	大学運動部国内・国際大会の入賞実績	11(加算点 1)	定量
	大学運動部の学生選手の能力向上度	4	定性
	大学運動部学生選手の高潔度	4	定性
	大学運動部女性指導者人員	加算点 3	定量
	小計	33(28+加算点 5)	
指導者確保及び能力 (26)	大学運動部専任指導者確保率	5	定量
	大学運動部指導者処遇改善実績	5	定量
	大学運動部指導者能力指数	7	定量
	大学運動部指導者高潔度	5	定性
	大学運動部女性指導者人員	加算点 4	定量
	小計	26(22+加算点 4)	
大学運動部の社会貢献 (17)	大学運動部の社会貢献	6	定性
	KUSF 運営規程遵守	6	定性
	KUSF 施行事業の協力及び参与度	加算点 5	定性
	小計	17(12+加算点 5)	
計	定量評価 87点 (加算点 12点 含む)		定量 評価 15項目
	定性評価 30点 (加算点 5点 含む)		定性 評価 6項目
	総 117点 (加算点 17 点含む)		総 21 評価 項目

表4 支援した大学数と運動部数, 総額

年度	大学数	運動部数	総額 (ウォン)
2014	65	151	32 億 3 千万
2015	74	339	40 億
2016	82	380	40 億
	1	29	3 億 5 千万
2017	80	373	42 億 2 千万
	1	27	8 億

表5 KUSF 大学スポーツ運営規程の節の構成

KUSF 大学スポーツ運営規程	
第 1 節	総則 (第 1 条～第 6 条)
第 2 節	スポーツ倫理とアマチュアリズム (第 7 条～第 13 条)
第 3 節	協議会及び大学 (第 14 条～第 17 条)
第 4 節	学生選手の入試及び学業管理 (第 18 条～第 28 条)
第 5 節	競技運営 (第 29 条～第 36 条)
第 6 節	体育部・運動部の運営及び競技指導者の採用 (第 37 条～第 45 条)
第 7 節	財政及びマーケティング (第 46 条～第 59 条)
第 8 節	表彰及び懲戒 (第 60 条～第 81 条)

に命じた。また、大会の運営が学生の学業を妨げる恐れがある場合には KUSF がそれらを制限することができることと定めた (第 29 条)。また、学生選手には、出場を希望する大会前の 1 年間の平均成績が C⁰ 以上であることを基準として、大会出場が可能であることを定めた。なお、C⁰ とは GPA で 2.0 を意味し、大学によっては GPA を 4.0 段階または 4.5 段階にすることもある。

第 39 条と第 43 条は、競技指導者に関する条項である。競技指導者の雇用契約は、運動部の競技実績により左右され、不安定な身分であったことや、勝利至上主義に陥ったという反省から、競技指導者の任期を 3 年間保障すると定めた。また、競技指導者には KUSF に倫理誓約書を提出させ、スポーツ法及びスポーツ倫理に関する教育セミナーに出席することを義務づけた。

KUSF 運営規程は、2015 年の公布と同時に施行することになっていたが、学生選手の学習権の保障のための規定である第 25 条 (単位管理と不利益処分) と第 27 条 (在学中のプロ及び企業進出と学生選手の資格喪失) の第 2 項は、公布後 1 年が経過した日から施行し、大学入学基準に学業成績を反映する第 21 条 (入学要綱) の第 3 項についても、2018 年度から大学入試に適用することとした。

このように学生選手の学習権を最優先にする方針は実際にスポーツ特待生制度の改善に影響し、2020 年からはすべての大学において学業成績を反映してスポーツ特待生を選考することに改正された¹⁸⁾。また、KUSF は、大学の関係者及び保護者、学生選手を対象に入試制度変更などを周知するために説明会を開催し、全国の大学スポーツ特待生に関する情報を掲載した「全国大学体育特待生の大学入試選考要項 (全

表 6 KUSF AWARDS の表彰対象及び志願資格

表彰対象	表彰人数及び 大学数		奨学金・ 奨励金	志願資格	
	学生選手	最優秀		1名	500万ウォン
優秀		6名	250万ウォン		
指導者	最優秀	1名	500万ウォン	志願時点基準、所属大 学在職期間 1 年以上 で在職証明書が提出 可能な者	
	優秀	2名	250万ウォン		
大学	最優秀	1校	500万ウォン	KUSF 会員大学	

국대학 체육특기자 대입전형요강)」を毎年発刊し配布している。

また、優秀な学業成績と競技力を備える学生選手と優秀な学生選手を養成した指導者及び大学を対象に表彰事業として「KUSF AWARDS」を毎年行っている。表彰対象及び志願資格は、表 6 に示す通りである。

2017 年に優秀大学に選ばれた Sehan 大学は 13 種目の運動部を運営し、授業と練習時間がかぶらないように大学が調整し、学生選手の学業支援と就職支援のためのプログラムを運営していた¹⁹⁾。

さらに、国家代表の学生選手に対しては、KOC と協力し、国家代表選手のトレーニングセンターにおいて講義を開設している。トレーニングセンターで受けた講義は、所属大学の単位として認定される。2017 年の 2 学期に開催された授業は、専攻科目として「運動競技分析」と「運動力学」を、教養科目として「スポーツ

英語会話」を開設してトレーニングセンターにいる国家代表の大学選手が講義を受けた。

ほかに、健全な大学スポーツ文化を醸成するために、学生選手と指導者を対象に教育プログラムを運営している。まず、学生選手に対しては、不正行為やドーピング防止教育、倫理教育、安全教育などを実施し、禁止薬物を区別できるように講義内容を構成し、また、競技中に生じ得る緊急状況に対応できるよう各大学を訪問して講義を行っている。2017 年には 62 大学の 4,120 名の学生選手を対象に教育を行った。また、運動部指導者と大学の関係者などを対象に職務研修会を毎年行っている。2017 年には主に大学学生選手の学業管理についてシンポジウムを行い、指導者のリーダーシップ研修会を 1 泊 2 日の日程で行った。2017 年には 336 人が参加した。

(3) 大学生のスポーツ大会の振興

KUSF が主催する大会は、大学対抗のエリートリーグと一般学生が参加するサークル競技大会がある。

エリートリーグ戦以前には、トーナメント方式により、特定の地域、または各地域を回りながら試合を行い、大学の授業には参加できない状況であったことや短期間で勝敗が決定されることにより、試合前には集中的で厳しい合宿トレーニングを行い、学生選手の学習権や人権が侵害された事件があったことから、文化体育観光部や各大学競技連盟などが協力し、リーグ制の導入を進めた。2011年からはサッカー（男子）とバスケットボール（男女）、バレーボール（男子）に「大学スポーツエリートリーグ」を導入し、2017年から軟式テニス（男子）と野球（男子）、2018年からはアイスホッケー（男子）において正式に導入し、計6種目においてホームアンドアウェー方式で大会が実施されている。

特に、KUSF が主催するリーグ制は、KUSF 運営規定を遵守することを原則としていることから、学生選手の学業の面を考慮した大会運営がなされている。また、大学内での開催により、学生と大学の関係者、地域住民が観戦でき、大学スポーツに対して関心が向上しており、バスケットボール、バレーボール、野球種目においては全国地上波テレビ局であるKBSとケーブルテレビであるKBSN、また、

インターネットを利用してネイバースポーツ（NAVERSPO RTS）とKUSFのホームページにおいて実況中継を行い、広報活動も強化している。2017年には計202競技を中継した²⁰⁾。しかし、週末を利用したリーグ制により試合数が増加したことで週末に3試合以上を行う場合も生じ、学生選手個人の休息や余暇時間が減少し、精神的・身体的な疲労が以前より蓄積され、学生選手の負傷の原因にもなったという分析もある²¹⁾。

一方、一般学生が参加するサークル競技会は、一般学生のスポーツ参加を奨励し「1学生1スポーツ」の実現を目的として、2014年にバスケットボールを対象にモデル事業を行った。2016年からは、正式にバスケットボール（男女）と野球（男子）が導入され、2017年にはバレーボール（男女）、サッカー（男女）が追加され、計4種目7部門において「KUSFクラブチャンピオンシップ」が開催されている。まだ一般学生を対象にする大会では、トーナメント戦とする種目もある。予選は6地域で行い、予選を勝ち抜いたチームは、一つの地域に集まって決戦大会を行う。2017年度は、5月から10月まで予選を行い、225チーム、3,967名の大学生が参加し、決勝戦は、11月3日から5日まで48チーム、714名の学生が参加する成果をあげた。

また、大会情報を共有するためにKUSFクラブチャンピオンシップモバイルホームページ

表7 大学スポーツエリートリーグ2017年参加大学の現況

	種目名	リーグ名	参加 大学数	KUSF 主催 リーグ導入年度
1	男女 バスケットボール	男女大学バスケットボール リーグ	男：12 女：7	2011
2	男子 バレーボール	全国大学バレーボールリーグ	12	2011
3	男子 野球	全国大学野球週末リーグ	31	2017
4	男子 軟式テニス	全国大学軟式テニス週末リーグ	12	2017
5	男子 サッカー	大学サッカーUリーグ	83	2017
6	男子 アイスホッケー	未定	5	2018

(<http://club.kusf.or.kr>) を構築して携帯で大会の日程、結果、試合の動画などを見ることができるようにし、2017年の大会終了後に11,406名がホームページを閲覧し、大会の広報効果にも成果をあげた。特に、女子学生が活動できる大会が全国的な規模で提供されるようになったことは、女子大学のスポーツ活動振興にも繋がる成果となった。KUSFは、今後も継続的な大会開催と広報活動を通して新規種目の追加と大会規模の拡大を課題としている。

(4) 総合マーケティング及びブランド強化

KUSFでは、大学スポーツの広報に加え、学生選手と一般学生の間での共感形成、大学スポーツの底辺の拡大を目的として表9のような取り組みをしている。

まず、広報メディアを利用して大学スポーツの情報を発信している。KUSFのブログ (Kusf_sport.blog.me)、フェイスブック (www.facebook.com/kusfsport)、インスタグラム (www.instagram.co./kusfsport)、インターネットTV (tv.cast.naver.com/kusfsport) など多角的に展開し、学生選手はもちろん一般学生の関心を増加させる傾向にある。

また、大学スポーツ広報の強化策として、学生に大学スポーツリーグや競技会の取材をさ

せ、記事を書かせる取り組みを行っている。これは、KUSF学生記者団と称し、2015年の後期には第10期生の募集を行い10名を選抜した。学生は半年間活動する。学生の進路支援活動としてスポーツマーケティング分野を体験させる事業も行っている。2016年には一般学生を対象に、2017年には選手経験がある学生を対象にエリートリーグ、クラブリーグの集客活動や広報メディアにコンテンツをアップロードすることなどを行った。2017年には全国38大学30チーム120名が参加し、実際に大会の観客数を増加させる成果を上げた。KUSFの統計によると、大学バスケットボールリーグのホーム競技の観客は120%増加し、大学バレーボールリーグの場合には290%増加したと報告している²²⁾。

4. KUSFの抱える課題に関する考察

設立されてから9年目になるKUSFは、今まで実施してきた事業から一定の成果をあげており、韓国の大学スポーツにポジティブな影響を与えていると考えられる。例えば、大学スポーツをめぐって多くの問題があったことから関連事業を展開し、その改善を図ることに努めてきた。しかし、KUSFが行っている事業の9割が国からの補助金によって実施されている

表8 KUSFクラブチャンピオンシップ2017年参加チーム及び参加選手の現況

	種目	予選(2017.5~10)		決戦(2017.11.3~5)	
		参加チーム	参加選手	参加チーム	参加選手
1	男子 バスケットボール	69	1050	6	84
	女子 バスケットボール	9	96	6	73
2	男子 野球	56	1075	12	204
3	男子 バレーボール	25	436	6	65
	女子 バレーボール	14	223	6	72
4	男子 サッカー	52	1087	6	112
	女子 サッカー	予選未実施, 推薦により選抜		6	104
合計		225	3,967	48	714

表9 KUSF が用いる広報メディア

広報メディア	内容
KUSF 大学 スポーツブログ	Kusf_sport.blog.me <ul style="list-style-type: none"> ・多様な大学スポーツニュース ・大学スポーツリーグ及びその他大学競技の情報発信 ・大学スポーツ関連企画記事 1日平均訪問者数 656(2011)→2,731(2016)増加
KUSF 公式 フェイスブック	www.facebook.com/kusfsport <ul style="list-style-type: none"> ・KUSF 機関事業及び行事紹介 ・KUSF 会員大学及び大学スポーツ関連情報発信 ・各種スポーツ関連コンテンツ情報共有 「いいね」数 4,225(2016.11)→26,118(2017.11)518%増加
KUSF クラブスポーツ フェイスブック	www.facebook.com/kusfclub <ul style="list-style-type: none"> ・2016年新設 ・大学スポーツクラブの各種お知らせの特化ページ ・KUSF クラブチャンピオンシップ大会関連情報発信 (参加チーム、優秀チームインタビュー、大会フォート) 「いいね」数 557(2016.11)→2,013(2017.11)261%増加
KUSF インスタグラム	www.instagram.com/kusf_sport <ul style="list-style-type: none"> ・2016年新設 ・イメージ中心の大学スポーツ広報コンテンツ強化 ・KUSF フェイスブックとコンテンツ連携
KUSF naver TV	tv.cast.naver.com/kusfsport <ul style="list-style-type: none"> ・KUSF 機関事業及び行事映像 ・KUSF 会員大学及び大学スポーツ関連情報発信 ・大学スポーツエリートリーグ中継

ことは、財政的基盤を強化するための事業展開が必要であることを意味する。大学単位でも財政的自立のための努力が必要であるが、大学スポーツ全体のブランド化による収益力向上のために、KUSFの役割はより重要になると考える。そのために、現在実施している「大学スポーツエリートリーグ」と「KUSFクラブチャンピオンシップ」に対して大学構成員、及び地域住民の支持と参加を得られることが重要である。特に、大会会場に足を運ばせるための事業が必要になるが、現在、KUSFでは、マーケティング

分野の体験を目的として一部の学生を対象に集客活動が行われている。今後は、事業の規模をさらに拡大し、イベント形式の事業だけではなく、KUSFと協力して行われるマーケティング事業として展開していく必要がある。このような集客関連事業によって、一定の確保された観客数は、大学スポーツのブランド化の一助となると考えられるからである。

【注】

1) 衝撃的な事件は、以下の3つがあげられ

- る。第1にジャン・ヒジン選手事件，第2に天安小学校サッカー部火災事件，第3にショートトラック女子国家代表選手コーチ暴力事件である。第1の事件は，2000年5月23日に当時14歳であった水泳国家代表選手のジャン・ヒジン（장희진）選手が，学校の試験が終わってから選手村での訓練に合流する意思を該当連盟に伝えたところ，選手管理及びチームワークに支障が生じることを理由に国家代表選手の資格が剥奪されたことであった。第2の事件は，2003年3月26日に小学校サッカー部に所属している学生選手が訓練のために合宿所で生活をしていたところ，火事が起き9名の選手が死亡したことであった。第3の事件は，2004年11月3日にショートトラック女子国家代表選手6名がコーチの暴力と私生活への厳しい監視に耐えられなくなり，選手村から離脱したことであった。
- 2) 学校体育振興法は，2012年1月26日に制定され，2013年1月27日に施行されている。同法は，学生の体育活動の強化及び学校運動部の育成等，学校体育の活性化に必要な事項を定めることにより，学生が健康でバランスのとれた身体と精神を持つことができるように寄与することを目的とし，全19条から構成されている。
 - 3) 関允淑，韓国大学スポーツ学長協議会について，大学体育，105, 165-168, 2015.5.
 - 4) 関(2015)は，1. KUSFの設立，2. KUSFの組織，3. KUSF大学スポーツ運営規定，4. KUSFの事業状況について説明した。4. KUSFの事業状況では運動部や運動部に所属している学生選手を対象にしている事業についてのみ説明をした。本稿は，関(2015)の先行研究をベースに2015年以降からの状況も含めて説明し，KUSFの設立の経緯とKUSFの組織についてより詳しく検討した。特に，KUSFの組織についてはKUSFの目的，組織体制，財務状況に分けて説明する。また，KUSFが運営する事業については，運動部及び学生選手を対象にする事業から一般学性を対象にしていた事業と大学スポーツ自体のマーケティング及びブランド強化事業までKUSFが実施しているほとんどの事業を検討することとした。さらに，KUSFの関係者へのインタビュー調査を実施し，その結果を反映してまとめた。
 - 5) 質問事項についてまず，以下の通りに4つに大きく区分した。第一に，KUSFの設立背景及び沿革について，第二に，KUSFの組織運営について，第三に，KUSFの事業について，第四に，大学スポーツ全般について質問した。対象者によって多少質問を変えてインタビュー調査を実施した。
 - 6) 文化体育観光部（Ministry of Culture, Sports and Tourism）は，文化芸術，スポーツ，観光の振興業務を担当する中央行政機関である。体育は教育と科学の担当行政の文教部が1964年から担当したが，1968年に文教部の文化芸術行政の業務が広報部に移管されて体育も広報部の担当になった。1994年からは学校における体育・スポーツ活動は主に教育行政（現，教育部）が担当し，生涯スポーツとエリートスポーツは文化行政（現，文化体育観光部）が担当することになった。
 - 7) KUSFの関係者のインタビュー調査によると1990年代には大学バスケットボールの人気は，プロチームを超えるほどであったことから，その時のように大学スポーツを振興させたいという意味もあったという。また，大学体育館を利用すればホームアンドアウェーリーグを直ぐに導入できること，また，11大学しかなかったので意見を吸い上げることが容易だったからだとの説明があった。
 - 8) KUSF内部資料により（2018年1月25日）.

- 9) KUSF ホームページ : <http://kusf.or.kr/university/university.html> (参照日 2018 年 9 月 18 日).
- 10) KUSF ホームページ : <http://kusf.or.kr/info/organization.html> (参照日 2018 年 9 月 20 日).
- 11) 国民体育振興法は、1962 年 9 月 17 日に制定され、現在まで韓国のスポーツ基本法として、役割を果たしている。国民体育振興基金第 22 条第 1 項においては基金を使用する事業は、以下の 12 と定めている。1. 国民体育振興のための研究・開発及びその普及事業、2. 国民体育施設の拡充のための支援事業、3. 選手と体育指導者の養成のための事業、4. 選手、体育指導者及び体育人の福祉向上のための事業、5. 広告又は国民体育振興基金造成のための事業、6. 第 14 条第 4 項による奨励金及び生活補助金の支援、7. 第 17 条第 2 項及び第 3 項による資金の融資、8. 第 24 回ソウルオリンピック大会と第 8 回ソウルパラリンピック大会を記念するための事業、9. (条項削除)、10. 統合体育会、大韓障害人体育会、韓国ドーピング防止委員会、生活体育関連体育団体と体育科学研究機関及び体育人材育成関連団体の運営支援、11. 低所得層の体育活動支援、11 の 2. スポーツ産業振興法第 2 条第 2 号によるスポーツ産業の振興のための支援事業、12. その他、体育振興のための事業として大統領令が定める事業であった。また、第 2 項においては、1. 学校体育活性化のための事業、2. 学校及び職場運動競技部の活性化のための事業、3. 審判養成及び支援のための事業、4. 体育・文化芸術分野専門人力養成事業、5. 文化芸術の脆弱分野の育成のための事業、6. その他、体育・文化芸術の振興のために特別に支援が必要な事業が定められている。
- 12) 体育振興投票券は、2001 年から導入された。一般的にスポーツ toto と称されている。サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール、ゴルフを対象にスポーツ toto を発売している。
- 13) KUSF 内部資料 (2018 年 1 月 25 日インタビュー).
- 14) KUSF 内部資料 (2018 年 1 月 25 日インタビュー).
- 15) KUSF 内部資料 (2018 年 1 月 25 日インタビュー).
- 16) KUSF, 韓国大学スポーツ総長協議会 2017 年鑑, 16-18, 韓国大学スポーツ総長協議会, 2017.12.31.
- 17) KUSF 内部資料 (2018 年 1 月 25 日インタビュー).
- 18) 韓国大学教育協議会, 2020 学年度大学入学典型基本事項, 16-17, 韓国大学教育協議会, 2017.8.
- 19) KUSF 公式ブログ : <https://m.post.naver.com/viewer/postView.nhn?volumeNo=12916912&memberNo=1352526&searchKeyword=KUSF%20AWARDS&searchRank=5> (参照日 2018 年 9 月 20 日).
- 20) インターネットを利用した中継が 202 回と一番多く、KBSN 放送では 14 回、KBS 放送では 1 回中継した。
- 21) Shin, Chang-Hun · Kim, Dae-Jin · Oh, Jung-Geun, 勉強する学生選手の支援事業についての大学運動選手の認識 (공부하는 학생선수 지원 사업에 대한 대학 운동선수의 인식), 韓国スポーツ教育学会誌, 18 (3), 39-54, 2011.07.
- 22) KUSF, 韓国大学スポーツ総長協議会 2017 年鑑, 32, 韓国大学スポーツ総長協議会, 2017.12.31.

【参考文献】

- 韓国大学スポーツ協議会 (2018.3.13) 韓国大学スポーツ協議会定款 (2010.7.16 制定).
 韓国大学スポーツ協議会 (2018) 2018KUSF 大

- 学スポーツ運営規程及び運営細則（2015年1月21日制定）.
- 韓国大学スポーツ総長協議会（2017.1.31）韓国大学スポーツ総長協議会 2016年鑑.
- 韓国大学スポーツ総長協議会（2017.12.31）韓国大学スポーツ総長協議会 2017年鑑.
- 韓国大学スポーツ総長協議会（2017.8.11）2018全国大学体育特技者大学入試典型要項.
- 韓国体育学会・民族統一体育研究院（2009.12.4）大学スポーツ先進化方案セミナー－大学スポーツの先進化のための戦略的課題－.
- 社団法人民族統一体育研究院（2009.10.9）韓国大学スポーツ先進化戦略－韓国型 NCAA の可能性模索.
- Kim, Wha-Bok · Kim, Ae-Rang, 大学スポーツリーグ観覧制約要因による市場細分化（대학스포츠리그 관람제약 요인에 따른 시장 세분화）, 韓国体育科学誌, 26（4）, 621-632, 2017.12.
- Kwon, Ki-Nam · Lee, Jung-Rae, 大学スポーツリーグ制運営の充実化方案に関する研究（대학스포츠리그제 운영의 내실화방안에 관한 연구）, 韓国体育学会誌, 53（3）, 139-151, 2014.06.